



2024年6月17日

各 位

会社名 京成電鉄株式会社  
代表者名 取締役社長 小林 敏也  
(コード番号 9009 東証プライム市場)  
問合せ先  
総務部総務・法務課長 小松崎 一郎  
(TEL. 047-712-7061)

## 議決権行使助言会社の推奨レポートに対する当社見解について

当社は、議決権行使助言会社である、Institutional Shareholder Services Inc. (以下「ISS社」といいます。) 及び Glass, Lewis & Co., LLC (以下「GL社」といいます。) が、2024年6月27日開催予定の第181期定時株主総会における株主提案議案(以下「本株主提案」といいます。) について、賛成を推奨する旨のレポートを発行した事実を確認いたしました。

当社は、2024年5月20日開催の取締役会において、本株主提案に反対することを当社取締役全員(独立社外取締役5名を含みます。) の賛成で決議し、「[株主提案に対する当社取締役会の反対意見に関するお知らせ](#)」を公表しております。

ISS社とGL社の両社ともに、資金使途を考慮せずに、株式会社オリエンタルランドの株式(以下「OLC株式」といいます。) を売却すること自体が目的化している本株主提案を支持しておりますが、当社といたしましては、これは当社の事業特性や戦略を十分に理解した上での判断であるとはいえ、当社の中長期的な企業価値向上については株主共同の利益の最大化に資するものではないと考えております。加えて、GL社については、本株主提案の受領後において、当社からエンゲージメント面談の申し入れをいたしたにもかかわらず、当社と面談を実施することなく推奨レポートを発行している点についても、大変遺憾に感じております。

鉄道事業を営む当社においては、提案株主及びISS社やGL社が想定するよりも長期に亘る大規模投資計画を、多くの関係者の皆さまとの協議・調整を経て決定する必要があり、その進捗を勘案しながら資金計画を策定し、必要となる資金額とタイミングを踏まえて、適切な資金調達方法を検討・選択する必要があります。

当社は、成田空港への輸送強化を重要な戦略の一つに掲げております。成田国際空港株式会社は、2030年代に成田空港の年間旅客数7,500万人、発着回数50万回を目標としており、鉄道アクセスについてはターミナルの再編に伴う新駅の整備や空港周辺の複線化等が検討されているところ、当社においては、これらへの対応として東京都心部への更なる利便性向上・輸送力増強等に取り組んでまいります。今後これに対応するべく大型の投資が必要になると想定しておりますが、本株主提案が企図する2年弱の期間中にOLC株式を売却し、早期に資金を調達することは、適切なタイミングでの投資計画と成長戦略の実現には繋がりません。OLC株式の売却を早期に行うことで、むしろ将来の資金需要に応じた柔軟な資金調達を阻害し、プロジェクトの可能性を狭めることに繋がりがかねません。OLC株式の売却にあたっては、当社の中長期的な企業価値向上については株主共同の利益の最大化の観点から、売却の方法やタイミング等について慎重な検討が必要であると考えております。

ISS 社は、そのレポートの中で、「本株主提案は、経営陣に秩序だった OLC 株式の売却を実行するための十分な時間を与えており、かつ OLC 株式全株式の売却を迫るものではなく、将来の投資ニーズを支えるだけの十分な OLC 株式の保有を許容するものである」と主張しておりますが、この主張は、上述したような当社の事業特性を十分に理解せず、また、事業に必要な資金の使途や調達のタイミングの検討が不十分であり、保有株式の売却を 2 年弱という短期間で求めることを妥当とする意見は適切ではないと考えております。

株主の皆様におかれましては、当社グループの事業特性や経営戦略をご理解いただき、当社取締役会の意見へのご賛同(本株主提案への反対)を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

以上